# 第３回仙台市農業施策基本方針検討委員会　議事の概要

日時：令和８年６月 30 日（火）
午前 10 時 00 分～12 時 00 分
場所：仙台市役所表小路仮庁舎経済局作業室

## １．出席者

委　員　６名（伊藤房雄委員長、相澤陽奈委員、郷古雅春委員、佐藤利永委員、佐藤友佳委員、緩鹿泰子委員）　（欠席１名）
事務局　７名
傍　聴　０名

## ２．概要

１．開　会

２．あいさつ
≪農林部長≫

３．議　事
（１）仙台市農業施策基本方針の素案について　資料１
**事務局（農林企画課長）**　資料１により説明

【１．はじめに】

**郷古委員**
・農業が発展し多面的機能も発揮すると、農村の景観も良くなる。「農地の遊休地化に伴う農村の景観の悪化」といった文を追記できないか。

**事務局（農林企画課長）**
・入れられるように検討したい。

**伊藤委員長**
・17 ページの用語解説の「農業の多面的機能」の中にも“良好な景観の形成”という説明もある。この部分にも“農村”の追記を検討してほしい。

**佐藤利永委員**
・「景観」とは、言葉どおり見た目を指すのか？

**郷古委員**
・文化についても包含する「風景」という言葉のほうがしっくりくるが、一般的には「景観」を使うことが多い。

**佐藤利永委員**
・中山間地域で「景観」というと、どうしても農地周辺の電気柵や除草剤で茶色くなった見た目をイメージしてしまう。

**郷古委員**

・営農が続くことで農村の景観が守られるイメージ。電気柵も農業を守るために必要。遊休地化で荒れたり太陽光発電が散在すると景観が悪化する。昔は居久根を活用して素晴らしい景観だったが、地権者だけに委ねても維持が難しい。

**伊藤委員長**

・言葉の定義は難しい。全体としては自然の「風景」で、人が管理することで守る側面が「景観」だと思う。遊休農地が増えることで農村が部分的に原野に還ると変な見た目になる。農業を持続することで農村の「景観」が維持されるという捉え方で追記できれば良いと思う。

【２．期間】

・特に意見なし。

【３．目指す将来像】、【４．施策の柱】

**相澤委員**

・前回イメージ図のことを話したが、４ページのイラストはとても良い。

**伊藤委員長**

・「多様な人材」をキーワードにしているので、障害がある方も盛り込めれば良い。例えば３ページ３つ目の〇で個人・法人や障害のある方という文章や、車いすに乗った人が参加しているイラストがあってもよいと思う。

**佐藤利永委員**

・昨年米価が高騰し、消費者から購入したいとの問い合わせが増えたが、「農薬は使っているのか」との質問があって驚いた。ほとんどの米は農薬を使っていることを知らないようだった。消費者と農業者の相互理解を深める内容を追記できたら良い。

**伊藤委員長**

・３ページ４つ目の〇で「農業体験や農業者との交流を通し」の後に相互理解の内容を追記してはどうか。

**郷古委員**

・同意見で、農業への理解を深め、生産現場の実情を知ってもらうことが大事だと考える。

【（１）経営体の確保・育成】

**郷古委員**

・６ページの「☆集落営農再編支援」の具体のイメージは？

**事務局（農業振興課長）**

・特に西部地域では集落営農の維持が大変な組織もある一方で、ほ場整備を契機に新たな担い手が生まれる地域もある。活動エリアの整理などを地域の話し合いを通して整理することをイメージしている。

**伊藤委員長**

・☆の事業はまだ予算化もはっきりしないが、今後予算化に向けて動いていきたい

気持ちが込められた事業という理解でよいか。

**事務局（農林企画課長）**

・そのとおり。

**伊藤委員長**

・佐藤利永委員は、所属する宮城実践組合の法人化を検討しているところで、まさにこの事業が該当してくると思うが、法人化によるメリットは感じているか？

**佐藤利永委員**

・現状、地域にとって法人化してすぐメリットが出るかと言われると思い当たらない。ただ、この先営農を継続していく中で、補助事業の活用などを想定すると必要性はあると思う。

**伊藤委員長**

・補助事業の活用の他にも、次の世代につなげるときに、従業員として若い人を雇用することを考えた際には法人のほうがやりやすい。雇用した従業員も育成し、いずれは経営者側になるケースもあるので、従業員教育も重要。

**事務局（農業振興課長）**

・まさに「◎◆アグリ経営アドバイザー事業」で支援している。

**郷古委員**

・新規就農は雇用で入ってくる人が多い。雇用就農する人が将来的には独立していくというインキュベータとしての機能があってもよいと思う。

**伊藤委員長**

・６ページ以降の【主な事業や取組み】の表中で、各事業の対象者が誰なのかが一目でわかるようになるとわかりやすく、もっと関心を持ってもらいやすいと思う。
・先ほどイラストの部分で、障害がある方が参加する様子を追加できないかと提案したが、「農福連携」のキーワードを施策の方向性②に追記してもよいと思う。

【（２）生産基盤の強化】

**郷古委員**

・施策の方向性で、防災の観点から「田んぼダム」を入れてはいかがか。

**事務局（農林部長）**

・仙台市では岩切地区で土地改良区や地権者と確認しながら実施しており、４年間で 170ha ほどと認識している。市内全域で設置するのは難しいが、対応が必要なところに設置する見込み。

**郷古委員**

・現在実施しているなら方向性に追記してもよいと思う。

**伊藤委員長**

・では、「田んぼダム」を施策の方向性③と用語解説への追記を検討してほしい。
・排水溝の自動開閉をスマートフォンから操作できる ICT 技術もある。

**郷古委員**

・田んぼダムも、どこでも効果があるわけではなく、シミュレーションの必要がある。農業者は大雨の時に水を早く抜きたいという気持ちもあると思うので、理解

醸成が難しい側面もあるが、いろいろな知見や技術が増えてきている。

**伊藤委員長**

・宮城県の食と農の県民条例でも「田んぼダム」が含まれているので、追記しても違和感はないと思う。

**伊藤委員長**

・有害鳥獣対策のうち、未然防止対策の一つとして、山から鳥獣が出てこないような山林の管理といった視点や取組みもあわせて検討してほしい。

【（３）地域農業の持続的発展】

**郷古委員**

・「１　はじめに」でも触れたが、農村の景観の保全に関することを背景や施策の方向性②含められるか、検討してほしい。

・施策の方向性①で、食の安全安心の消費者理解の向上に加えて、農業そのものに対する理解向上に関することの追記も検討してほしい。

**佐藤利永委員**

・資料 10 ページの「☆遊休農地解消実践プロジェクト」は新たに検討する事業だが、クマ等が増えて街中に出てきている要因の一つに、遊休農地など住処や移動ルートが増えていることもあると思う。地権者では草刈りできないこともあり、草刈りの機械を所有している農業者が対応して、相互フォローできればよいと思う。

**伊藤委員長**

・早急な対応が必要な案件だと思うので、ぜひ事務局で事業化を進めてほしい。

**郷古委員**

・参考として、新潟県で多面的機能交付金を活用し、広域で活動する草刈り受託の組織を整備した事例もある。

**佐藤友佳委員**

・施策の方向性③で、学童農園や小学校連携なども記載があるので、４ページのイラストに子どもたちを追加してはどうか。

**事務局（農林企画課長）**

・修正対応する。

**伊藤委員長**

・関連して、10 ページの小学校連携事業に、幼稚園や保育園など、もう少し小さい頃からの農業そのものへの理解や原体験が必要だと思うので、追加をしてほしい。

・４ページのイラストで、せんだい農業園芸センターも追加できるか試してほしい。

【（４）収益性の向上】

**伊藤委員長**

・施策の方向性③について、６次産業化の後に「農商工等連携」も追記し、用語解説にも追加してほしい。

**緩鹿委員**

・背景の「生産・加工・販売」はセットで製造など他の要素も入るので、「生産から販売まで」とまとめて記載するとすべて含める表現になると思う。

【５．主要指標】

**郷古委員**

・主要指標の数値目標は、トレンド型かチャレンジ型か。例えば、学童農園数の現状 59 カ所は多いのか少ないのかなど、数字の捉え方を教えてほしい。特に現在検討中の(3)の「農地面積の割合」と「学童農園数」について説明してほしい。

**事務局（農林企画課長）**

・現状を踏まえたうえで、５年後にどういった姿を目指すのかを加味して設定している数字が多い。

・「農用地区域面積のうち、日本型直接支払交付金の活用により保全管理される農地面積の割合」でいくと、現状はほぼ横ばいで推移しているので、85%を目指すとなるとチャレンジングな数字となる。精査したうえで厳しくても目標として目指す数値にしたいと考えている。

・「学童農園数」については、コロナ禍や担い手の高齢化などを受けて減少傾向にある。上向きにすることはチャレンジではあるが、現状以上にできるよう施策と組み合わせて取り組んでいきたい。

**伊藤委員長**

・仙台市 109 万人に対しての 59 カ所がどうかということについては、札幌市や神戸市など他の市町村を参考にしながら、設定してもらえたらよいと思う。

**事務局（農林企画課長）**

・他都市の状況も参考にしながら検討したい。

【６．推進体制】

・特に意見なし。

【７．策定の経過】

**伊藤委員長**

・経過は概ねこのままで、本案を諮る仙台市農政推進協議会や仙台農業協同組合の組合長などを追記する。

・各自の名前や所属に誤りがないか、確認してほしい。

【用語解説】

**伊藤委員長**

・本日の会議で出た説明が必要な用語などを適宜追加してほしい。

【全般】

**緩鹿委員**

・前回の会議の内容も盛り込まれ、４ページのイラストもわかりやすくてよい。

・都市農業の機能として防災機能も盛り込めたらよいと思う。

**伊藤委員長**

・「ネイチャーポジティブ」の要素は入っているが、今後も使われ続ける単語だと思うので、２ページの１はじめにの中段あたりに追記できればよいと思う。

・５年後の本計画見直しをするまでの間で、仙台市農業施策基本方針の名称について、農村も入れたほうがよいかどうか、仙台市農政推進協議会などで検討してほしい。

**佐藤友佳委員**

・14 ページの「５　推進体制」で、仙台市農政だよりや Instagram など周知は年代を問わず全世代に知ってもらいたいという理解でよいか？

**事務局（農業部長）**

・全世代、市民全般に知ってもらいたいと考えている。

**佐藤友佳委員**

・若い人の Instagram 利用が減っていると聞く。 SNS もいろいろなツールがあるので、YouTube などバリエーションを増やしてもよいと思う。

**佐藤利永委員**

・農業従事者として、また西部地区の農業者として、様々な施策が盛り込まれていてありがたい。

・４ページのイラストでマルシェをしている様子もあるので、ぜひ仙台市主催でマルシェをしょっちゅう企画してほしい。

・とれたて仙台 Instagram の目標が 8,000 人とある。目標は大きく、１万人を目指してはどうか。

**事務局（経済局理事）**

・市の Instagram だと環境局で運用しているアカウントが１万人超。今の２倍を目指す数値ではあるが、仙台市人口の１％の１万人が多いかどうかというと判断が難しい。

・今後５年間でトレンドや SNS ツールも変わると思うので、見てほしい方々に届くように柔軟に対応したい。また、紙媒体として市民センターなどへの配架なども継続していきたい。

**伊藤委員長**

・大学でも積極的な情報発信を求められていて、受験生はそういう情報をよく見ている。発信の他にも、受け手からのリアクションなど、キャッチボールが大切なので上手く活用してほしい。

**郷古委員**

・大学生は Instagram が多く、イベントの PR として学生に協力してもらったが、担当の分担や記事の玉出しなどを協力して実施したら相当の集客があった。

・農業や農村などが分野横断的になってきた。例えばクマ対策。農業者への危険も

あるが、市民への影響もあるので環境部門との連携も必要である。農業委員も務めているが、土地利用に関しても農業振興地域や遊休農地の解消など、農地が減っていく傾向のなかでどう維持していくかなどが課題だと感じる。後継者不足の問題だけではなく、都市計画法が適用されない地域での太陽光発電がスプロール的に開発される課題もある。

**相澤委員**

・委員の皆様と議論を重ねて、具体的な計画にできたと思う。
・農業に直接関わる機会は少なかったので、市民や消費者目線で計画を見てきた。仙台市の農業に対して、この計画を通して興味を持ってもらえたらよいと思うし、今後もたくさん情報発信をしてもらえたらよいと思う。

**伊藤委員長**

・今後５年間の中で事業や案件がでたら随時変更してもよいと思っている。
・大学生の論文の中で、緑提灯（飲食店等で使っている食材が、どのくらい地産地消かどうかを☆で表したもの）の取組みについて、有機農産物の推進に活用できないかをテーマにしているものがある。気の利いた人たちが考えたいろいろな方法・アイデアがあるので、行政の役割はその人たちがやれる場をどう作るか、あわせて進めていくことも大事だと思う。

**伊藤委員長（東京農業大学国際食料情報学部教授）**

・追加の意見や質問などがあれば、１週間以内を目途に事務局まで連絡願いたい。
・検討委員会は今回をもって最終とし、本日の意見を踏まえた修正案を事務局で作成後、内容確認は委員長一任でよろしいか。その後、委員の皆様に送付し、最終案については仙台市農政推進協議会に諮ることとしてよろしいか。

⇒全員了承

４．閉　会

以上